



第五四回・卒業証書授与式

第54回卒業証書授与式挙行される

去る3月1日(水)午前10時より、第54回卒業証書授与式が挙行されました。今年度の卒業生はわずか10名ということで、大変寂しい式になることも予想されました。しかしながら、本校PTA会長清澤哲弘様の卒業生一人一人へのねぎらいを込めた祝辞は、卒業生をはじめ多くの出席者の心に深く刻まれました。そして、式歌「ほたるの光」斉唱時には、涙ぐむ卒業生や父母の姿も見られました。式終了後の退場では、ゆずの「栄光の架橋」が流され、卒業生はしばらく起立をしたまま、3年間あった出来事や思い出を一つ一つ思い起こすかのように、別れを惜しむように会場をあとにしていきました。規模は小さいながらも、非常に感動的で、生徒個々を重んじた本校らしい卒業式であったと思います。



卒業式での新たな感動、さらなる創意に期待する!!!

校長 谷 奥 憲 夫

過日(3月1日)の卒業式では、10名の立派に成長した卒業生が、この学舎を巣立って行きました。式は厳粛な雰囲気の中で進行し、卒業生や在校生が、しっかりと自分達の記憶に残る高校生活の3年間(卒業生自身の回想)や先輩達(1・2年生自身の回想)との思い出を一生懸命に整理しようとしていたと、私には感じる事ができました。卒業生にとって、生涯の忘れることのできない節目であり、今回の卒業式は、印象深い素晴らしいものであったと思います。卒業生退場の場面では、意図的に演出・工夫がなされ、アテネ五輪のために作られた「栄光の架橋」「ゆず」の曲が流れ、最高に感動しました。「卒業生退場」の司会者の発声後、式全体の動きや時間(しばらく「2~3分間»)が止まりました。「式場内の全員」が、10名の卒業生一人ひとりを温かく見守り励ますような、温かな視線や息づかい、別れの時を告げる小さな心の鼓動が感じられました。これまでの卒業式では経験できなかった素敵な雰囲気であったと思います。

今回の卒業式を終えて、教育活動(学習成果も含め、取り組みでの充実感・達成感・成就感)の大切なものを感じました。生徒も教職員もそれぞれが心の温かさや努力(取り組み)したことでの満足感を持つことができたと思います。

平安時代初期、天台宗の開祖である最澄(767~822)の著書「天台法華宗年分学生式=山家学生式」にある「径寸十枚これ国宝に非ず、一隅を照らす是れ即ち国宝なり」から引用すると、「径寸」(金銀財宝の意)が何枚あっても国宝ではない、どんなささいな仕事でも、その仕事の成果を喜んでくれる人々がいる。世の中のほんの片隅で、誠実に努力をすることは、意味の無いことではない、それこそ、その人こそ、国の宝なのだ。この教えの「誠実に努力する人こそが宝なのだ」を理解して、今後の学校行事などでの取り組みの過程(計画・立案・実施・検討)で、生徒や教職員(私も含め)の自己鍛錬と創意工夫に多いに期待したい。

平成17年度 進路決定状況

平成17年度 卒業生10名
 就職1名・進学9名
 (大学3名・短期大学2名・専門学校4名)

先日、3年生の最後の進路未決定者の進路が決まり、3年生全員の進路が無事決定しましたので、ひとまずほっとしています。今年度に入り道外の求人が大幅に増加しましたが、道内の求人は依然厳しい状況です。来年度も厳しい状況が予想されておりますので、早めの指導、一人一人へのきめ細やかな指導に心がけ、生徒全員の進路実現に向けて学校全体で取り組んでいきたいと考えております。保護者の皆様にも引き続きご協力をお願いいたします。

1 学年総合的な学習の時間

BM

11月から取り組んできました1学年BM調査研究。今年度は『ビジネスアイデア』をテーマに、22名の生徒が5つの班に分かれてアイデアを出しあいました。3月17日(金)の発表会で、それらの作品をプレゼンテーションしたわけですが、どうしてその作品なのか、どのようにして製作するのか等々、スライドを用いて楽しく発表できました。コンテスト形式で最優秀作品を決めました。その作品は『ジギスカンまん・じゃがバターまん』『ライスバーガー』。実現の道は遠いですが、実際に商品化できたらよいなあと思っています。今回のBMでは町の皆様にもアンケートにご協力いただきました。大変感謝しております、ありがとうございました。



異動のお知らせ

谷奥 憲夫(仁木商業高等学校)
 小笠原茂美(釧路商業高等学校)
 野口 直美(旭川東栄高等学校)
 山田 雄哉(退職)

お世話になりました

4月行事予定

10日(月)	前期始業式・入学式(13:00~)
11日(火)	新入生オリエンテーション
13日(木)	生徒個人写真撮影
17日(月)	臨時PTA役員会
19日(水)	内科検診
20日(木)	身体測定・歯科検診
22日(土)	PTA総会(予定)